

特定非営利活動法人  
オールしずおかベストコミュニティ

～ 平成 26 年度活動のご紹介 ～

I

新聞で紹介されたオールしずおかベストコミュニティ

II

写真で見るオールしずおかベストコミュニティ



# 目次

## I 新聞で紹介されたオールしずおかベストコミュニティ

パルシェ販売会／被災地写真展	3
目指せ売れる授産製品	4
アビリンピック会場で障害者雇用促進セミナー	5
アピタ浜北店販売会	6
伊東ショッピングプラザ・デュオ販売会	7
伊東ショッピングプラザ・デュオ販売会	8
アピタ掛川店販売会	9
授産製品コンクール／沼津雇用創造オフィス視察研修	10
アピタ大仁店販売会	11
アピタ浜北店販売会／パルシェ販売会	12
ふじのくに商談会	13
イオンモール浜松志都呂販売会	14
ららぽーと磐田店販売会	15

新聞記事は新聞社の許諾を得て転載しています。

## II 写真で見るオールしずおかベストコミュニティ

静岡県授産製品コンクール／障害者芸術祭／ふじのくに商談会	16
授産品販売イベント／部会活動／セミナー・講演会	17
障害者働く幸せ創出センター／とも&テルベ	18

母の日などテーマ  
7事業所が販売会  
14日まで葵区

静岡市内の障害福祉  
サービス事業所で作ら  
れた授産品の販売会  
(NPO法人オールし  
ずおかベストコミュニ  
ティ主催)が11日、静



工夫を凝らした商品が並ぶ授産品の販売会  
＝静岡市葵区のJ R静岡駅ビルパルシェ

岡市葵区のJ R静岡駅  
ビルパルシェ「食彩館」  
で始まった。14日まで。  
「ちょっと早めのこ  
どもの日・母の日」を  
テーマに、7施設の利  
用者が手作りしたクッ  
キーや小物など約2千  
点が並ぶ。  
機織りの手法で作ら

れた機能的なバッグ  
や、動物のヘアピン、  
絵柄の入ったマスクな  
ど事業所それぞれの工  
夫を凝らした作品も出  
品され、来場者の注目  
を集めている。  
商品を購入した会社  
員の丸山田美さん(48)  
＝駿河区＝は「温かみ  
のある作品ばかり。母  
の日の贈り物にちょ  
うど良い」と目を細め  
た。

(平成26年4月12日・静岡新聞)

難病クローン病男性 沼津で被災地写真展

難病をかかえながら、被災地などの風景写真を撮り続ける新井さん＝沼津市で



腸に原因不明の炎症を起す難病のクローン病患者で、長野市在住の造園業新井栄司さん(48)が、東日本大震災の被災地の写真展を沼津市下町のギャラリーカサブランカで開いている。二十年以上に及ぶ自らの闘病と被災地の復興を重ね合わせ、希望を作品に託している。(山下葉月)

会場には、岩手県陸 旅に出て、仕事に生か前高田市の朝焼けに輝けるように古木や植物く「奇跡の一本松」などの風景写真の撮影を趣ど六十五枚が並ぶ。震 味にしていた。震災災半年後から、宮城や 後、津波に襲われた岩手などの被災地を十「奇跡の一本松」が生回訪れ、撮りためた一きいているのをラジオで千枚以上の一部だ。 知り、カメラを持って新井さんがクローン 二〇一二年九月に現地病の診断を受けたのは に向かった。 高校二年の時。以来、 被災地の惨状は想像を越えていた。廃虚の微熱と腹痛に悩み続け 中の傾いた倉庫。灰色イルムカメラを片手にの壁に青いスプレーで

復興と闘病重ね  
希望切り撮る

「奇跡の一本松」など65点「これからも見届けたい」

書かれた「こわしてO K」のメッセージに、所有者の無念さが伝わった瞬間、被災地の撮影を始める決意も芽生えていた。  
被災者が懸命に生きる姿が自身の闘病と重なった。通うにつれ、被災者が「頑張っ」の言葉を嫌うことも知った。自身も同じだった。「ならば態度で示す」。困難は乗り越えられることを作品展を通じて被災地に伝えると決めた。今回の作品展は昨年の東北巡回展に続き二度目になる。「少しずつ復興していく姿を見届けたい」。新井さんは被災地を撮り続けるつもりだ。  
沼津での展示は十九日まで。二十一、三十日に、静岡市葵区のオールしずおかベストコミュニティでも作品展を開く。問い合わせは新井さん＝電090(90004)35339＝へ。

(平成26年5月18日・中日新聞)





# 目指せ

# 売れる授産製品

## 独自性、デザインに磨き 企業、専門家らと連携も

障害者福祉施設が製造販売する授産製品の販路を开拓しようと、独自性やデザインに磨きをかける試みが広がっている。バザーや公共施設の常設コーナーでの販売が主流だが、一般市場に挑むために製品の質やデザイン、価格設定を企業、専門家から学び、「売れる授産製品」を目指す。

「以前は無理なく作れる製品をバザーで売っていた。今は一般消費者もターゲット。商

品の良さから手にとってもらうことが必要」と袴田みや施設長。施設名やメッセージを包装の表面にデザインしていたが、裏面の製造元欄にだけ施設名を記すように変更した。

「販路开拓にかける時間が取れない」などの声がかかるという。浜松市は13年度から「授産製品アドバイザー」を始めた。初年度はデザイナーや販売業者など6社が登録し、市内4施設が製品開発のノウハウや販売方法を学んだ。市の担当者は「施設の知識やスキルを引き出すための事業。今後は施設側のニーズと企業をつないでいきたい」と話している。



遠州織物を用いたハンカチなどを製作する利用者  
11月4日、浜松市南区のワークショップくろみ

## 県内施設、販路拡大へ

背景には、利用者の工賃がなかなか安定しない実情がある。リーマン・ショック以降、企業からの下請け受注が急減した。県が設定する工賃目標額は月額3万円だが、2012年度の平均は1万3953円にとどまる。

浜松市南区の障害福祉サービス事業所「ワークショップくろみ」では、下請け受注が売り上げの9割近くを占めていたが、10年以降は自動車関連が10分の1に減った。そこで遠州地方伝統の生地を用いたハンカチや名刺入れなどの自主製品を手掛け、13年度の事業別売上高の3割を占めるまでに伸ばした。

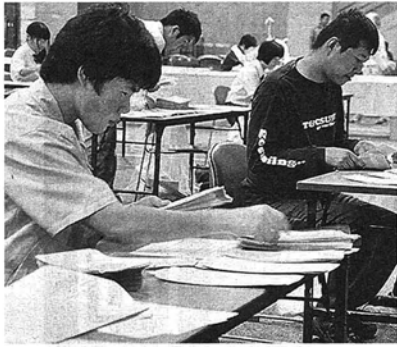
(平成26年6月11日・静岡新聞)



# 若者ら12種目で競う

## 障害者技能競技に150人

静岡



封筒を仕分ける出場者—  
いずれも静岡市駿河区で



野菜の計量、袋詰めをする出場者

静岡障害者技能競技大会(アビリンピック)が五日、静岡市駿河区のツインメッセ静岡で開かれた。県内の特別支援学校や職業訓練校、福祉施設で就労訓練に励む若者ら約百五十人がパソコンのデータ入力、縫製など十二種目で腕前を競った。このほか、封筒の宛名別の仕分けや、野菜の計量・袋詰め、木工製品仕上げなどの種目があり、各優勝者は十一月に愛知県で開かれる全国大会の出場候補者となった。

主催した静岡障害者職業センターによると、県内事業所で障害者の法定雇用率2・0%を達成しているのは半数以下。那須利久所長は「一般の人に仕事ぶりを見てもらい、企業の門戸を開いてもらえたら。一人雇用すると、固定概念が覆る」と話した。

アビリンピックはアビリティ(能力)とオリリンピックを合わせた造語。年一度開かれる。

(河野貴子)

障害者雇用の取り組み紹介  
法政大学院教授  
アビリンピックの会場では、七千社以上の中小企業を調査してきた法政大学院の坂本光司教授による障害者雇用促進セミナー「この人・この企業に学ぶ」が開かれ、障害者雇用に先進的な経営者の取り組みを紹介した。

坂本教授は、障害者支援をするNPO法人オールしずおかベストコミュニティ(静岡市葵区)の理事長で、「日本でいちばん大切にしたい会社」の著者。「精神障害を治すのは働くこと」を信念に、出版社をつくって障害者を雇う精神科医や、重度の障害がある人たちを正社員と

して迎え入れ、それぞれに数百万円の年収を確保している男性経営者の事例など、約百三十人の聴講者に次々と紹介した。

坂本教授は「どうしたらこの人が幸せになるか、その人の幸せ軸で雇用形態を決めるべきだ。世のため、人のためにならないビジネスはするべきでない」と述べた。

(平成26年7月6日・中日新聞)

★障害者テーマに講演  
会 県は5日午前10時半  
〜11時45分、障害者をテ  
ーマとした坂本光司法政  
大大学院教授の講演会  
「この人・この企業に学  
ぶ」を静岡市駿河区のツ  
インメッセ静岡で開く。  
受講無料。

障害者の雇用を進める  
企業の取り組みなどを紹  
介する。同会場で同日開  
催の「アビリンピック2  
014」の関連事業。申  
し込み、問い合わせは企  
画運営のNPO法人オー  
ルしずおかベストコミュ  
ニティ(電話0554(255  
1)3515)へ。

(平成26年7月3日・静岡新聞)

## 浜北で11事業所 障害者の作品販売

# 創意工夫の「逸品」



障害者たちの手作り品が並ぶ会場＝浜松市浜北区で

県西部の福祉施設で働く障害者たちの「手作り逸品」を販売するイベントが二十三日、浜松市浜北区貴布祿、アピタ浜北店特設コーナーで始まった。二十四日まで。  
NPO法人オールしずおかベストコミュニティが企画し、浜松市の天竜区、北区、東区、南区、西区と袋井市にある計十一事業所が参加した。障害者たちが作った菓子などの食品や木工、雑貨などを即売している。かわいデザインのパストカードや伝統織物「遠州綿紬」を使ったバッグなど、障害者たちが創意工夫を凝らした品々が並ぶ。担当者は「丹念にこつこつと手間を重ねた品が増える傾向にある」と話していた。(正木徹)

(平成26年8月24日・中日新聞)

◆浜北区「きょうまで障害者の手作り商品を合同販売」NPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」は23日、浜松市



浜北区貴布祿のプレ葉ウォーク浜北で障害者が製作した商品の合同販売イベントを開いた。24日まで。  
市内を中心に県西部の11事業所の利用者が製作した遠州織のトートバッグや小物入れ、パストカード、菓子などを展示販売している  
写真  
23日は事業所の利用者たちも店頭に立って呼び込みをした。担当者によると、クッキーなどの焼き菓子が人気を集めたという。

(平成26年8月24日・静岡新聞)









缶バッジ作り体験をする子どもたち＝玖須美元和田の伊東ショッピングプラザ・デュオ

# 自慢の製品ずらり

13伊豆地区  
授産所

## 販売や缶バッジ作り

デュオ

県内で障害者の自立支援活動を行うNPO法人

し、初めて開催された。授産製品の販売と活動紹介、利用者や来場者との交流などが目的。市内の授産所やまもも、おおはら、工房ささみなどに

りと並び、多くの来場者でにぎわった。NPO法人おおはらの活動の一つ、缶バッジ作りを体験した山畑捷太郎君(7)は「上手にできて

オールしずおかベストコミュニティは24日、伊東市玖須美元和田の伊東ショッピングプラザ・デュオで授産所製品販売会を行った。伊豆地区4市町の授産所13施設が参加し、授産製品を販売した。同NPOの呼び掛けに13施設と伊東ショッピングプラザ・デュオが賛同

加え、熱海ふれあい作業所(熱海市)、かざぐるま(伊豆市)、わかくさ作業所(函南町)などが出店した。会場には菓子や木工品、縫製品など各事業所自慢の製品がずら

みを見せた。母親の陽子さんは「知らない事業所の活動や製品を知ることができいい機会」と話した。

(平成26年8月25日・伊豆新聞)

# お菓子や縫製 自慢の良品

掛川市大池のアピタ掛川店1階催事場で13日、中遠地区の福祉施設で働く障がいのある人が作ったパンや焼き菓子、縫製品などを展示・販売する「福祉応援フェア」が始まった。14日まで。(佐野太郎)

## 掛川で福祉応援フェア



施設の利用者が作った逸品が並ぶ「福祉応援フェア」会場＝掛川市で

施設利用者が手作り  
展示・販売

掛川市の「さわや家」と「ひまわり共同作業所」、「掛川工房つじ」、「ワイクスつばさ」、袋井市の「なごみかせ工房」と「かわり」、菊川市の「草笛共同作業所」の計七施設の仲間による手作り逸品が並んだ。食パンやチーズパン、

パウンドケーキ、クッキーなどのほか、エプロンや手提げバッグなど自慢の良品をそろいで、買ひ物の客らが足を止めて品定めしていた。

障がいのある人や施設、企業を結びつける事業をするNPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」の企画で、川市内の大型商業施設では初開催という。同法人の杉村光弘マネジャーは「施設の利用者が作った良い製品を知ってもらいたい。できれば定期的に開いていきたい」と来場を呼びかけていた。

(平成26年9月15日・中日新聞東遠版)



福祉事業所利用者  
授産製品100点出品

静岡

県内の福祉事業所の利用者らが作った作品を審査する県授産製品コンクール（NPO法人オールしずおかベストコミュニティ主催）が1日、静岡市葵区の「障害者働く幸せ創出センター」で開かれた。63事業所が作品、縫製、木工製品、雑貨、食品の5部門に計約100

（平成26年10月2日・静岡新聞）



製品を手に取り品質などを確認する審査員11日午後、静岡市葵区の「障害者働く幸せ創出センター」

点を出品した。審査員は手作りのクッキーを味見したり、

陶芸作品を手にとったりして、担当者に「素材は」「月に何個作れるの」などと質問した。製品の見栄えや品質、オリジナル性などの項目で採点した。県知事賞の作品は次の通り（かっこ内は事業所名）。  
▽作品 「中泉地区内（久保町）屋台と横

須賀の屋台」（サンサ  
ンいわた東原〓磐田  
市）▽縫製品「祝！お  
祭りセット」（掛川工  
房つじ〓掛川市）▽  
木製品「ランプシェー  
ド」（えーる〓伊豆市）  
▽雑貨品「携帯護美袋  
ケース」（希望の家〓  
島田市）▽食品「チー  
ズ&ケーキ」（ラポー  
ル・タスカ ベンチタ  
イム〓静岡市）



沼津 障害者の多様な働き方学ぶ  
県とNPO法人オールしずおかベストコミュニティはこのほど、県内の企業経営者や人事担当者らを対象にした研修会「障害のある人の多様な働き方」を

沼津市内で開いた。会場は障害者をはじめ就労困難者の雇用を積極的に進めるIT関連企業アイエスエフネットグループ（東京都、渡辺幸義代表）が同市西条町に構える「沼津雇用創造オフィス」。定員の2倍を超える約70人が参加した。放課後等デイサービス、スポーツジム、レストランなどオフィス内を見学し、障害のある人やお年寄りが特技を生かして生き生きと働く姿を見て回った。写真〓 渡辺代表の講演にも耳を傾けた。

（平成26年11月22日・静岡新聞）



きょうから  
福祉フェア

アピタ大仁店  
伊豆の国市のアピタ大仁店で6、7の両日、福祉施設で働く障害者が作った商品の販売イベント「福祉応援フェア」が開かれる。

主催は、福祉サポート活動を続けるNPO法人オールしずおかベストコミュニティ。伊豆市、伊豆の国市、三島市から7事業所が出展し、縫製品、木工品、小物、パン、クッキーなどを販売する。また、オリジナルの缶バッチを作る体験コーナー（1個200円）を開設する。午前10時～午後5時。

(平成26年12月6日・伊豆日日新聞)



来客に商品を薦める出店者＝伊豆の国市のアピタ大仁店

# 昼すぎにパン完売

## アピタ大仁店 福祉応援フェア盛況

伊豆の国市のアピタ大仁店で、福祉施設の障害者が作った商品の販売イベント「福祉応援フェア」が6日始まった。多種多様な商品が並び、同日限定で販売したパンは昼すぎに完売する盛況ぶりをみせた。7日(午後5時)まで。

主催は、NPO法人オールしずおかベストコミュニティ。出店は、伊豆市のえーる、中豆授産所、かざぐるま、中伊豆リハビリ・あゆみ、伊豆の国市のもくせい苑、三島市のイルカ、沼津市の共生会の7団体。

木工品や縫製品、小物、菓子類などを販売。オリジナル缶バッチを作るコーナーも設けている。伊豆の国市に住む女性は「ちょうどアピタに来ていて偶然立ち寄った。クッキーがおいしそうだったから買った」とほほ笑んだ。

ベストコミュニティの竹村寿美東部地区センター長は「量産品にはない手作りの良さがある。ぜひ購入して生活の彩りに加えてほしい」と話し、「多くの人に足を運んでもらい事業所や障害者の理解や認識を深めてもらいたい」と呼び掛けた。

(平成26年12月7日・伊豆日日新聞)

## 浜北区で10事業所



# 障害者手作り品販売

障害者週間（3～9日）にあわせ、浜松、袋井両市の授産施設など10事業所が6日、アピタ浜北店（浜松市浜北区）内で、菓子や手すき和紙の年賀状など手作りの食品、雑貨の販売を始めた。7日まで。（勝間田秀樹）

はまかせ（浜松市南区）は、今秋の県授産製品コンクールで二位に輝いたピーナツバター

ピーナツバターやぼん酢、手すきの年賀状など食品、雑貨が並ぶ会場。浜松市浜北区のアピタ浜北店で。

## 啓発週間に合わせ 和紙の年賀状など

（六百円）などを出品。三ヶ日たればな授産所（同北区）は、早づみミカンの果汁から作った三ヶ日青みかんぼん酢（六百五十円）を数量限定で販売している。

ほかにも作業所せきれい（同天竜区）が、浜松市のキャラクター「家康くん」の顔をデザインした天竜スギのカスタネット（八百円）などユニークな一品が並ぶ。

主催したNPO法人オールしずおかベストコミュニティ（浜松市中区）によると授産所などで働く障害者の一カ月の工賃は、平均で約一万四千元と十分ではないのが現状。「売り上げは障害者の収入につながります」と来場を呼び掛ける。

（平成26年12月7日・中日新聞）



## 葵区 16日まで、県内10施設の授産製品販売

県内の障害者福祉サービス事業所で作られた授産製品の販売が13日、静岡市葵区のJR静岡駅ビル・パルシェ食彩館で始まった。16日まで。

手織りのバッグやポーチ、間

ストコミュニティが10施設を取りまとめた。同NPO支援部の正守利彦さんは「製品の質が向上している。ぜひ手にとって感じてほしい」と話した。

伐材を使ったペーパースタンドなど、利用者が心を込めて作った約80種類の商品が並ぶ。写真。NPO法人オールしずおかベスト

（平成27年1月14日・静岡新聞）



## 安心安全をアピール 駿河区で商談会 福祉事業所製品



授産製品について説明する障害福祉事業所の担当者ら＝静岡市駿河区のグランシップで

県内の障害福祉事業所の製品を企業や自治体などに紹介する「ふじのくに商談会」（中日新聞東海本社後援）が二十七日、静岡市駿河区のグランシップであった。

ユニティが企画し、三十六事業所が食品や木工、縫製品などを展示販売。昨年十月の県授産製品コンクールで知事賞などを受賞した製品も紹介された。

同NPOによると、県内に事業所は二百四十力所あり、約四千八百人が働く。一

人当たりの平均工賃は月額一万四千円。自立した生活は困難な状況で、工賃アップが大きな課題となっている。

参加した福祉事業所の担当者は、商品を前に「飼っているカイクのマユから作ったシヨールや、自分たちで育てた麦を製粉して焼いたマドレーヌです」と、安全と安心をアピールしながら販売促進に努めていた。

## 県内36福祉事業所が出店

（平成27年1月28日・中日新聞）

### 27日、授産製品商談会

障害者の福祉サービス事業所で作られる授産製品と企業を引き合わせる商談会（中日新聞東海本社後援）が二十七日午前十一時～午後四時半、静岡市駿河区のグランシップで開かれる。企業担当者や一般が対象。

県内三十六の福祉事業所が出店。食品、縫製品、雑貨など自主製品の優れた点をPRし、受託できる役務を紹介する。

### グランシップで、講演会も

販売もある。

午前十一時から「売れる商品とは」の講座もある。午後一時半からは、法政大学院の坂本光司教授が「幸せな職場のつくり方」と題して講演する。

商談会、セミナーのいずれも参加無料。申し込みは、NPO法人オールしずおかベストコミュニティ＝電054（251）3515＝へ。

（平成27年1月20日・中日新聞）



## 福祉施設応援フェア

21、22日  
西区 パン、雑貨など販売

県西部の障害者福祉  
サービスマスターの  
作り産品を販売する  
「福祉応援フェア」が

「福祉応援フェア」が  
二十一、二十二両日午  
前十時～午後五時、浜  
松市西区のイオンモ  
トル浜松志都呂一階セン  
トラルコートで開かれ  
る。

浜松、湖西、磐田三  
市の十七事業所が参  
加。餃子や生シタ  
ケ、クッキー、パン、  
雑貨、ポストカードな  
ど二百種近い商品が並  
ぶ。  
出店する事業所は次  
の通り。  
▽浜松市 ひくま  
の、工房いもねこ、三  
ヶ日たちばな授産所、  
HOTDOG STY  
LE TACT、くる  
み共同作業所、遠州み  
みの里、はまかせ、く  
るみ作業所、ワークシ  
ヨップくるみ、もくせ  
い会浜松事業所、きら  
り、アルス・ノヴァ、

(平成27年2月18日・中日新聞)

ウイス半田、ウイス規  
塚、まつぼっくり

▽湖西市 すこやか  
ファーム

▽磐田市 サンサン  
いわた

問い合わせはNPO  
法人オールしずおかベ  
ストコミュニティ 電

053(458)76  
00へ。

# 障害者ら手作り 自慢の逸品販売

パンやギョーザ、はがき…

イオンモール浜松志  
都呂(浜松市西区)の  
専門店街一階セントラ  
ルコートで二十一日、  
県西部の障害者福祉サ  
ービス事業所が作った  
食品や雑貨など「手作  
り逸品」の販売イベン  
トが始まった。二十二  
日まで。  
浜松、湖西市などに  
ある十七事業所が出店  
し、ギョーザや生シイ  
タケ、はがき、クッキ  
ー、パンなど自慢の品  
を販売した。家族らが  
会場を回って、品定め

## 西区で支援イベント始まる

二十二日は午前十時  
から午後五時までで、  
午前十一時と午後一時  
に、浜松市のキャラク  
ター「出世大名家康く  
ん」と磐田市の「しっ  
ぺい」が来場する。じ  
ゃんけん大会と写真撮  
影がある。県主催で、  
障害者と作業所、企業  
の連携などを支援する  
NPO法人オールしず  
おかベストコミュニティ  
イ西部地区センター  
(中区)が運営してい  
る。(池田知之)

パンなど自慢の品を販売する関係者らー浜松市西区で



(平成27年2月22日・中日新聞浜松版)

## 障害者施設 製品一堂

ららぽーと磐田 9事業所が販売

県西部の障害者施設の利用者が作った品の販売会が二十八日、磐田市の大型商業施設「ららぽーと磐田」一階で始まった。一日まで。九事業所が、遠州綿糸を使った小物入れやヒノキなどを削った箸、トイレットペーパー、クッキー、ジャムを販売している。障害者福祉を社会に広める活動をしているNPO法人オールしずおかベストコミュニティ(静岡市葵区市)が主催した。担当者は「おいしいパンやカボチャの甘いポタージュがある」とPRしている。



会場に並ぶ障害者施設で作ったパンなどの商品=磐田市で

(平成27年3月1日・中日新聞)

### 催し

手づくり逸品・福祉応援フェア(磐田市) 28日、3月1日午前10時〜午後5時、高見丘、ららぽーと磐田1階・東広場。障害のある人の手作り製品の展示・販売など。28日には市のイメージキャラクター「しっぺい」も応援に。直

接会場へ。NPOオールしずおかベストコミュニティ ☎053・458・760

(平成27年2月26日・朝日新聞)



## II 写真で見るオールしずおかベストコミュニティ

### ■静岡県授産製品コンクール（平成26年10月1日・障害者働く幸せ創出センター）



専門家や消費者による審査で優れた授産品を表彰。障がいのある人のものづくりを応援します。  
(出展事業所数 63 出品点数 99 点 来場者数 170 名)

### ■障害者芸術祭（平成26年10月25日・障害者働く幸せ創出センター）



車椅子試乗体験・手話ゲームや障がいのある人のものづくりの技を、一般の方に楽しみながら体験していただきました。  
(来場者数 682 名)

### ■ふじのくに商談会（平成27年1月27日・グランシップ）



福祉事業所で作られる製品やサービスの展示・商談会。企業と福祉の橋渡しをします。  
(参加事業所数 38 来場者数 181 名)



## II 写真で見るオールしずおかベストコミュニティ

### ■授産品販売イベント企画



イオンタウン富士南「福祉応援フェア」



「フェスタシズウェル 2014」での販売会

大型商業施設やイベント会場での授産品販売を企画・サポートし、障がいのある人の工賃向上を目指します。

### ■部会活動



販促研究会（効果的な POP 作成の実習）



食品研究会（専門学校で焼菓子等の実習）

様々な部会を設置し、会員で構成された部会員による研究や意見交換を通して、研鑽を積んでいきます。

### ■セミナー・講演会



障がい者雇用セミナー7・坂本光司 法政大学  
大学院教授講演「幸せな職場の創り方」



高校や大学で福祉事業所のイメージアップ講座

企業や福祉事業所向けの各種セミナー・視察研修・講演会を企画運営。

## Ⅱ 写真で見るオールしずおかベストコミュニティ

### ■障害者働く幸せ創出センター（静岡市葵区呉服町 2-1-5 「5 風来館」 4 階）



授産製品コンクール受賞製品展示



交流イベントスペース

障がいのある人の雇用や就労に関するご相談、会議室の提供や、授産品の展示などの PR 活動を行っています。

### ■福祉のお店「とも」 & 福祉ショップ「テルベ」

#### ◆とも静岡店

（静岡市葵区駿府町 1-70 シズウエル 1 階）



#### ◆とも沼津店

（沼津市大手町 1-1-3 沼津商連会館 1 階）



#### ◆テルベ

（静岡市駿河区曲金 3-1-5 イトーヨーカドー静岡店 1 階）



これらの店舗で静岡県内各地の授産品を多数販売。障がいのある人の工賃向上を目指すとともに授産品の PR を行います。



## こんなご相談は、オールしずおかへ！

- ◎ ノベルティグッズに障がいのある人の作った雑貨を使い社会貢献をしたい
- ◎ 福祉事業所に仕事を発注したい
- ◎ 障がい者雇用に興味があるが、どんな制度を使えるか知りたい
- ◎ 障がいがあり働きたいが、どこに相談してよいかわからない
- ◎ 授産品の販路拡大のアイデアがほしい etc.

お気軽に  
ご相談下さい！



## フレッシュな情報を発信中！

ホームページ オールしずおかベストコミュニティ

<http://www.all-shizuoka.or.jp/>

オールしずおかの活動がよくわかるサイトです。

Facebook ページ オールしずおかベストコミュニティ

<https://www.facebook.com/allshizuoka>

しずおか授産品 WEB カタログ

<http://s-seihin.jp/>

静岡県内の福祉事業所で作られている授産品を閲覧できるサイトです。アイテムや地域などによる絞り込み機能や検索機能も充実。

ウェブショップ「ココのみ」

<http://www.co-conomi.com/>

まずは検索！

オールしずおか



ユニークな授産品やコラボ商品をオンラインで販売。全国に授産品の魅力を発信しています。

特定非営利活動法人 オールしずおかベストコミュニティ

事務局

〒420-0031 静岡県静岡市葵区呉服町 2-1-5 「5 風来館」4 階

TEL 054-251-3515 FAX 054-251-3516

Mail [info@all-shizuoka.or.jp](mailto:info@all-shizuoka.or.jp)

公式 HP <http://www.all-shizuoka.or.jp>

